



【戦評シート】

平成 23 年 8 月 9 日 (火)	協会名 :	秋田県 バスケットボール協会														
場 所 : ニツ井総合体育館 (Cコート)	記入者 :	小林英紀														
チームA 米沢第七 (山形 2 位)	50	<table border="0"> <tr> <td style="font-size: 3em;">{</td> <td>8-23</td> <td style="font-size: 3em;">}</td> </tr> <tr> <td></td> <td>14-12</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>18- 8</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>10- 5</td> <td></td> </tr> </table>	{	8-23	}		14-12			18- 8			10- 5		48	チームB 石鳥谷 (岩手 1 位)
{	8-23	}														
	14-12															
	18- 8															
	10- 5															

スターター	チームA : #4, #5, #6, #10, #11
	チームB : #4, #7, #8, #10, #11
ディフェンス (試合開始時)	チームA : <input checked="" type="checkbox"/> マンツーマン <input type="checkbox"/> ゾーン () <input type="checkbox"/> その他 ()
	チームB : <input type="checkbox"/> マンツーマン <input checked="" type="checkbox"/> ゾーン (1-3-1) <input type="checkbox"/> その他 ()

米沢七はオールコートマンツーマンディフェンス、石鳥谷はハーフコートゾーンディフェンスで始まる。

第 1 ピリオド、石鳥谷 #4 高橋梨がゴール下シュートを決め先制する。さらに #7 高橋彩 #8 川村が続けて 3P を決めるなど序盤から流れをつかむ。対する米沢七は、#10 設楽がゴール下シュートを決めるが、なかなかオフェンスのリズムをつかめず、3 分を切ったところで前半 1 つめのタイムアウトを請求する。その後米沢七 #5 島貫が 3P を決めるものの、石鳥谷のゾーンディフェンスを崩すことができず、逆に速攻を決められ離されてしまう。結局 8-23 と石鳥谷がリードし第 1 ピリオドを終了する。

第 2 ピリオド、米沢七はオールコートゾーンプレスを仕掛ける。開始から米沢七は #6 佐藤、#5 島貫がオフェンスリバウンドから連続ゴールを決める。ボール運びでミスが続く石鳥谷は前半最初のタイムアウトを請求する。石鳥谷は #4 高橋梨がドライブからレイアップ、#7 高橋彩がパスカットから速攻を決める。対する米沢七はインサイドを中心にオフェンスを組み立て、#11 古田、#6 佐藤がシュートを決める。その後は、お互いにディフェンスのプレッシャーを強め、流れを渡さない互角の展開でゲームが進み、22-35 と石鳥谷がリードし第 2 ピリオドを終了する。

第 3 ピリオド、開始早々米沢七 #5 島貫、#11 古田が立て続けに速攻からジャンプシュートを決める。さらにオールコートゾーンプレスでプレッシャーをかけ石鳥谷のミスを誘い得点につなげ、一ケタに詰め寄る。悪い流れを切りたい石鳥谷は後半最初のタイムアウトを請求する。石鳥谷は #4 高橋梨が続けてシュートを決めて流れを引き戻すかに見えたが、米沢七のゾーンプレスにミスを重ねてしまい、徐々に点差を詰められてしまう。40-43 と米沢七が 3 点差に詰めたところで第 3 ピリオドを終了する。

第 4 ピリオド、開始 1 分を過ぎたところで米沢七は #5 島貫の 3P で同点に追いつく。その後、お互いに粘り強いディフェンスで一進一退の攻防が続く。4 分過ぎに米沢七が #5 島貫の 3P シュートでついにリードを奪うと石鳥谷ベンチは後半 2 回目のタイムアウトを請求する。ディフェンスのプレッシャーを強めて流れをつかみたい石鳥谷だが、逆に米沢七 #5 島貫にジャンプシュートを決められ、たまたま後半 3 回目のタイムアウトを請求し勝負に出る。#4 高橋梨を中心に必死にシュートに向かうが後一歩及ばず 50-48 で米沢七が逆転で勝利をつかんだ。

注意：文面には試合内容のみご記入下さい。